

《記事》

スタンフォード大学滞在記

——東アジア図書館での史料閲覧と中国法制史ゼミナールの聴講を中心に——

(2019 年 2 月 4 日～3 月 5 日)

久保 茉莉子

はじめに

筆者は、2019 年 2 月 4 日から 3 月 5 日までの約 1 ヶ月間、スタンフォード大学に、同大学東アジア研究センター（Center for East Asian Studies, CEAS）のポスドク訪問研究員（Visiting Postdoctoral Scholar）として滞在した。非常に短い滞在期間ではあったが、CEAS を紹介してくださった同大学歴史学部（Department of History）のマシュー＝ソマー（Matthew H. Sommer）教授⁽¹⁾や CEAS の教授・職員の方々、図書館や文書館の職員の方々に助けていただきながら、史料閲覧、ゼミナール聴講、同大学所属の学生・研究者との交流など、様々な経験をし、たいへん有意義な時間を過ごすことができた。

ここでは筆者が 1 か月間に見聞きしてきたことの一部、東アジア図書館での史料収集とゼミナールの聴講体験についてまとめておくこととしたい。

1. 東アジア図書館での史料収集

（1）東アジア図書館について

東アジア図書館（East Asia Library, EAL）⁽²⁾は、スタンフォード大学におけるアジア研究の主要な図書館・文書館としての機能を持ち、社会科学・人文学に関する中国語・朝鮮語・日本語の文献を 68 万冊以上所蔵している。さらに、インターネット環境も相当整っており、館内で 80 万冊以上もの電子書籍・雑誌を閲覧することができる。また、各時代の貴重書や一次史料を収録したコレクションも充実している。

開館時間は平日午前 9 時～午後 10 時、土曜日午前 9 時～午後 5 時、日曜日午後 1 時～午後 10 時で、ほぼ全ての文献をこの時間帯に閲覧することができる。多くの文献が開架式で所蔵されており、スタンフォード大学の共通図書館カードを持っていれば、それらを自由に閲覧できる。貴重書・一次史料類に関しても、申請手続きを経れば、それほど厳しい制限を受けることなく、EAL 受付の後方にあるガラス張りの専用閲覧室で閲覧し、複

製や写真撮影をすることが認められている。

(2) ホアン・バーナード・コレクションについて

筆者は、今回、フィリップ=ホアン (Phillip C. C. Huang)⁽³⁾ とキャサリン=バーナード (Kathryn Bernhardt)⁽⁴⁾ が中国・台湾各地の文書館や図書館で収集した、清代、民国期及び中華人民共和国期 (18 世紀半ば～ 1980 年代) の司法・行政文書を閲覧した。この史料群は、ホアン・バーナード中国司法文書コレクション (Huang-Bernhardt Collection of Chinese Legal Documents, 以下 HBC と省略する) といい、EAL が所蔵する貴重書類の一つになっている⁽⁵⁾。

但し、「中国司法文書」といっても、ホアンやバーナードの研究テーマに関連する史料群であるため、相続・土地売買・債務・婚姻案件の判決文書が多数を占めるなど、収録される文書の内容には偏りがあり、他の研究者にとっては扱いの難しい史料群であるともいえる。それでも、具体的にどのような史料が収められていて、それらを今後の研究にいかに関活かせるといったことを自分の目で確かめたく、今回、HBC の閲覧に比較的多くの時間を費やした。

HBC の文書は、時代・地域・テーマ別に、108 個の箱 (Box 1-108) に分けて整理されている。今回、筆者は時間の制約があり、全ての箱の内容を確認することはできず、民国期の分 (Box 12-67) のみを閲覧した⁽⁶⁾。

各箱に収められている文書の分量や内容はかなり異なる。分量についていえば、例えば判決書のコピー 200～400 頁分を簡易製本したものが 1～数冊入っている場合もあれば、未製本状態のコピーが大量に入っている箱もある。また内容に関しては、例えば判決書や裁決書のみが綴じられている場合もあれば、訴状や法廷弁論記録といった様々な文書が含まれている場合もある。いずれにしても、訴訟関係者間の往来文書の類は少ないので、判決が出るまでの過程、訴訟の全体像をつかむための史料としては、ややもの足りないと感じられる面もある。

(3) HBC の内容紹介——民国期部分 (Box 12-67) を中心に

ここでは筆者が閲覧した Box 12-67 の内容や特徴について、簡単に紹介しておくこととする。紙幅の都合上、より詳細な情報については別表を参照されたい。

民国期の訴訟について分析するならば、Box 12-13, 32-41, 44-67 を中心に見ていくこととなる。県の司法公署、地方審判庁・地方法院、高等審判庁・高等法院、大理院・最高法

院の各段階の判決書や、和解・調解の記録、訴状等が収録されており、多数の事件の「事実」と「判決」及び「判決理由」、人々の要求・関心等を知ることができる。民事案件が大部分を占めるが、例えば離婚案件で夫による妻の暴力をめぐって検察や警察、法医が関わるなど、刑事法研究においても重要な事例が含まれている。

Box 44-50（「民国大理院・京師高等審判庁檔案」）については、中国第二歴史檔案館（以下、二檔と省略）が、ここ 10 年間ほど、電子化作業を主な理由として、多くの史料を一時非公開としてきたため、特に貴重な史料群であるといえる。但し、すでにホアンやバーナードがこの史料群を用いて分析していること、台湾の黄源盛教授が二檔の史料を用いて詳細な大理院研究を行っていること⁽⁷⁾、2018 年前後に二檔が大量の電子版史料の公開を始めたことなどを踏まえると、今後、HBC の史料価値については慎重になる必要がある。二檔の公開史料を吟味した後、あらためて HBC の活かし方を考えるべきであろう。

また、Box 51-67（「民国北京地方法院檔案」）は、北京政府時期から中華人民共和国成立前夜の司法状況の変遷を見る上で重要な史料群である。但し、全ての年代の文書が収録されているわけではなく、1942 年の文書が多いなど、やや偏りがある。また、Box 62 の一部や Box 65-67 は未製本状態である。北京市檔案館は比較的多くの史料を電子版で公開しており、同館所蔵史料を用いて民国期北京の司法の実態を分析した研究が蓄積されている⁽⁸⁾。よって、新たな知見を提示するためには、HBC はあくまで他の史料の補足史料として用いるべきかもしれない。

以上のように、HBC の利用方法については慎重に検討すべきであるが、民国期法制史研究の進展に活かせればと考えている。

2. 授業について

（1）先行研究の講読

今回の滞在期間中、筆者は 2 つの中国法制史ゼミナールに参加した。一つ目は、“Law & Society in Late Imperial China” というゼミナールである。このゼミナールは、毎週月曜日の午後に開かれ、2 ～ 3 時間かけて、中国法制史、特に清代・民国期法制に関する英語の先行研究をめぐって討論するという内容であった。受講者は 10 名で、1 つの文献につき、1 ～ 2 名が要約を担当した後、ソマー教授が補足説明を加えつつ、全員で自由に討論する形式となっていた。

各回のテーマは以下の通りである。

第1回：授業ガイダンス。

第2回：「基本機関」(“Basic Institutions”)。

第3回：「政治犯と独裁」(“Political Crime and Autocratic Power”)。

第4回：「証拠、審査、訴え」(“Evidence, Review, and Appeals”)。

第5回：「道德秩序の見方」(“Vision of Moral Order”)。

第6回：「知県とそのもとで働く人々、法律専門家」(“The Magistrate, His Staff, and Legal Specialists”)。

(第7回は休講。)

第8回：「民事」法と地方裁判所の実態」(“Civil Law and Local Court Practice”)、「財産と契約」(“Property and Contract”)。

(第9回は休講。)

第10回：「文化的文脈の中の法」(“A Law in Cultural Context”)、「清朝における法的多元性」(“Legal Pluralism in the Qing Empire”)。

筆者は、第6回(2月11日)、および第8回(2月25日)に参加した。毎回、授業の冒頭でソマー教授がその回の重要な論点に関わる質問を投げかけ、学生がそれに対する短い回答・議論を行った後、文献講読に入っていく。授業後半の議論は、授業冒頭に示された重要な論点を意識しつつ、様々な研究者の議論を整理した上で行われるため、非常に密度の濃い内容になっていると感じられた。各回の内容について簡単に紹介すると、第6回は地方レベルの訴訟の実態に注目するものであり⁽⁹⁾、中央と地方との関係、理想と現実の差、知県の紛争処理方法、汚職の原因、訟師の存在意義、法律が守られない理由、“rational”な解決方法の意味といったことが論点となっていた。また、第8回は「民事」とよばれる訴訟に注目する内容で⁽¹⁰⁾、フィリップ・ホアンが唱えた informal / formal / third という紛争解決方法の区分や、「民事」と「刑事」の違い、清代における「民事」案件の定義をすることの意味について議論が交わされていた。

(2) 史料の講読

筆者が聴講したもう一つの授業は、“Qing Legal Documents”というゼミナールである。このゼミナールは、毎週金曜日の午後に開かれ、約3時間かけて、清代・民国期の多様な法律関連文書をめぐり、参加者全員で読解・議論するという内容であった。このゼミナールの受講者は、全員、毎回、文献の一部を英訳し、その概要を紹介することが課題とされ

ていた。その際、その文献の特徴、目的、文書作成者や対象者、案件の事実と判決の概要、引用されている法律などについて簡潔に説明することが求められていた。

各回のテーマ及び主要文献は、以下の通りである。

第1回：大清律例（The Qing Code）。主要文献は薛允升『「讀例存疑」重刊本』。その他、沈之奇『大清律輯注』、吳壇『大清律例通考』等も参照。

第2・3回：中央の訴訟文書（Central Case Records）。主要文献は『刑科題本』。

第4・5回：地方の訴訟文書（Case Records from Local Courts）。主要文献は、HBCに収録される「四川巴県檔案」及び「直隸寶坻県檔案」、『淡新檔案』、『龍泉司法檔案選編』等。

第6回：判例集（Officially Published Casebooks）。主要文献は、祝慶祺『「刑案匯覽」三編』（北京古籍出版社、2000）。

第7回：官箴書・判牘（Magistrates' Handbooks, Memoirs, and Case Collections）。『官箴書集成』（黄山書社、1997年）、『政書集成』（中州古籍出版社、1996年）に収録される黄六鴻『福惠全書』、藍鼎元『鹿州公案』、汪輝組『學治說贅』等。

第8回：契約文書（Contracts (etc.))。主要文献は、土地売買・家産分割・婚姻・養子等に関する契約文書。『田藏契約文書粹編』（中華書局、2001年）、『徽州千年契約文書』（中国社会科学院歴史研究所、1991年）、The James Hayes Collection of Land Deeds from Guangdong (Hoover Archives), The Liu Family Collection of Land Deeds and Contracts from Zhejiang (Hoover Archives)も参照。

（第9回は休講。）

第10回：事例分析及び研究計画の発表。事例分析では「楊之武与小白菜冤案」を扱う。

主要文献は、『申報』、『刑科題本』、『硃批奏摺』、『新增刑案匯覽』巻15等。

筆者は第5～8回に参加した。このゼミナールの受講者は10名で、上述した先行研究講読のゼミナールに参加している学生も多く、史料を読みながら、先行研究の成果と課題を再考するという議論ができていた。また、当該史料を用いることの意味、それぞれの史料を分析する際に注目すべき点、研究テーマに応じた史料の使い分けといったことについても論じられていた。

筆者が特に印象に残ったのは、第8回のゼミナールである。この回は、ソマー教授の用意した清代・民国期の契約文書の中から学生が自ら興味のあるものを選んで、その概要や

選択理由を説明するという内容であった。生の史料に直に触れるという面白さもあり、筆者も含め、参加者全員がとても楽しみながら学ぶことができ、通常よりもさらに活気のあ
る回であったと思う。

このゼミナールは、積極的に意見を発表する学生が多く、ソマー教授の補足説明をはさ
みつつ、学生同士で活発な意見交換がなされており、筆者は大いに刺激を受けた。ちなみ
に、筆者自身についていえば、例えば日本の研究状況についてなど、何か有意義な発言を
しなかったのだが、英語と中国語で交わされる議論を理解し、論点に対する自分の考えを
まとめるのに精一杯で、あまり意味のあるコメントを残せなかったことを反省したい。

おわりに

今回のスタンフォード大学での訪問研究は、1 ヶ月というわずかな滞在期間であったこ
ともあり、予定していた全ての目標を達成できたわけではないが、予想以上に多くの出会
いに恵まれ、本当に貴重な経験をすることができた。

とりわけ、アメリカの大学の授業に参加できたことは、大きな収穫であった。筆者が参
加した2つのゼミナールは、学生が質問・議論しやすい和やかな雰囲気でありながら、十
分な準備学習を経た上で議論がなされており、ほどよい緊張感があつた。このようなゼミ
ナールに参加でき、たいへん幸運であったと思う。

ソマー教授、CEAS の教授・職員の方々、EAL の職員や学生スタッフの方々、ゼミナ
ールその他で出会えたスタンフォード大学の研究者・職員・学生の方々に、あらためて感謝
の意を表したい。

- (1) 主要な著作は以下の通り。Matthew H. Sommer, *Sex, Law, and Society in Late Imperial China* (Stanford University Press, 2000). Matthew H. Sommer, *Polyandry and Wife-Selling in Qing Dynasty China: Survival Strategies and Judicial Interventions* (University of California Press, 2015).
- (2) 詳細については以下のウェブサイトを参照されたい。 <https://library.stanford.edu/eal>
- (3) 1966 ～ 2004 年、カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) 教授、名誉教授。2005 年から中国人民大学教授。主要な著作は、Philip C. C. Huang, *Civil Justice in China: Representation and Practice in the Qing* (Stanford University Press, 1996). Philip C. C. Huang, *The Peasant Economy and Social Change in North China*, (Stanford University Press, 1988).

- (4) UCLA 名誉教授。主要な著作は、Kathryn Bernhardt, *Woman and Property in China, 960-1949* (Stanford University Press, 1999)。また Huang との共編著として、Kathryn Bernhardt and Philip C. C. Huang eds., *Civil Law in Qing and Republican China* (Stanford University Press, 1994)。
- (5) コレクションの概要について、EAL のウェブサイトの説明（下記）も参照されたい。
<https://library.stanford.edu/collections/huang-bernhardt-collection-chinese-legal-documents>
- (6) 筆者が直接確認できなかった部分について、Box 1-5 には四川省檔案館で収集された「清代四川巴県檔案」が、Box 6-11 には中国第一歴史檔案館で収集された「清代河北宝坻県檔案」が、Box 68-90 には中国第一歴史檔案館で収集された「順天符檔案」が、Box 91-108 には台湾の国立中央図書館で収集された「淡新檔案」が収められている。
- (7) 黄源盛『民初大理院与裁判』（元照出版、2011）。
- (8) Michael H. K. Ng, *Legal Transplantation in Early Twentieth-Century China: Practicing Law in Republican Beijing (1910s-1930s)* (Routledge, 2014)。
- (9) 課題図書・論文は以下の通り。T'ung-tsu Ch'ü, 1962: *Local Government in China under the Ch'ing*. Melissa Macauley, 1994: "Civil and Uncivil Disputes in Southeast Coastal China, 1723-1820," in Kathryn Bernhardt and Philip C. C. Huang, eds., *Civil Law in Qing and Republican China*. Bradley W. Reed, 2000: *Talons and Teeth: County Clerks and Runners in the Qing Dynasty*. Li Chen, 2012: Legal Specialists and Judicial Administration in Late Imperial China, 1651-1911," *Late Imperial China*, 33:1.
- (10) 課題図書・論文は以下の通り。ゼミナール 2 回分なので、通常よりも読むべき文献の量は多い。H. F. Schurmann, 1956: "Traditional Property Concepts in China," *Far Eastern Quarterly*, 15:4. David C. Buxbaum, 1971: "Some Aspects of Civil Procedure and Practice at the Trial Level in Tanshui and Hsinchu from 1789 to 1895," *Journal of Asian Studies*, 30:2. Hugh T. Scogin, Jr., 1994: "Civil 'Law' in Traditional China: History and Theory," in Bernhardt and Huang, eds., *Civil law in Qing and Republican China*. Philip C. C. Huang, 1996: *Civil Justice in China: Representation and Practice in the Qing*. Myron L. Cohen, 2004: "Writs of passage in Late Imperial China: The Documentation of Practical Understanding in Minong, Taiwan," in Madeleine Zelin et al., eds., *Contract and Property in Early Modern China*. Anne Osborne, 2004: "Property, Taxes, and State Protection of Rights," in Madeleine Zelin et al., eds., *Contract and Property in Early Modern China*. Christopher Isett, 2004: "Village Regulation of Property and the Social Basis

for the Transformation of Qing Manchuria,” *Late Imperial China*, 25:1. Kentaro Matsubara, 2011: “Land Registration and Local Society in Qing China: Taxation and Property Right in Mid-Nineteenth Century Guangdong,” *International Journal of Asian Studies*, 8:2. Matthew H. Sommer, 2015: *Polyandry and Wife-Selling in Qing Dynasty China: Survival Strategies and Judicial Interventions*.

別表：HBC Box 12-67 收錄文書概要

Box No.	收集場所	文書名	内容	文書作成年
12-13	四川省宜賓県 檔案館	民国四川宜賓県地方法院檔案	宜賓県地方法院民事訴訟関連文書 (訴状、報告書等)	1933-1938
14	北京市順義県 檔案局	民国河北順義県檔案	政務工作報告表、各区編村表、村 長名簿、保衛団名簿、予算書、保 甲規約、保衛団組織内規定等	1928-1945
15	北京市順義県 檔案局	民国河北順義県檔案	収支公開表、税報告書等	1924-1941
16	北京市順義県 檔案局	民国河北順義県檔案	合作社条例、事業計画書、律師公 会會員名簿等	1925, 1944
17-21	北京市順義県 檔案局	民国河北順義県檔案	各区保衛団戸口冊	1928-1930
22	北京市順義県 檔案局	民国河北順義県檔案	警区主副村莊・戸口冊、被災者戸 口、貧民戸口等	1928, 1942
23	北京市順義県 檔案局	民国河北順義県檔案	婦女調査表等	1930
24-27	北京市順義県 檔案局	民国河北順義県檔案	各区戸口槍械調査表、戸数人口数 調査表	1931-1933
28-31	北京市順義県 檔案局	民国河北順義県檔案	經濟調査表（農業生産、消費、商 業、工業、物価、教育、実業等）、 商業関連資料	1924-1943
32	北京市順義県 檔案局	民国河北順義県檔案	順義県司法公署訴訟関連文書（陳 情書、訴状、和解記録等）	1914-1935

33	北京市順義縣檔案局	民国河北順義縣檔案	順義縣司法公署民事案件年表、京師地方府順義縣分庭民事・刑事訴訟案件月報表、北平地方法院順義縣分庭民事・刑事案件年表、法院推事・檢察官成績表等	1923-1931
34-36	北京市順義縣檔案局	民国河北順義縣檔案	刑事・民事訴狀、結狀、陳請狀、判決書等	1915-1934
37-40	江蘇省吳江縣檔案館	民国江蘇吳江縣檔案	吳江地方法院民事訴訟関連文書（訴狀、弁論記録、調解記録、判決書等）	1945-1949
41	浙江樂清縣檔案館	民国浙江樂清縣檔案	樂清地方法院民事訴訟関連文書	1945-1946
42-43	吉林双城縣檔案局	吉林双城縣歷史檔案目錄	司法関連文書目錄	1912-1938
44-46	中国第二歷史檔案館	民国大理院京師高等審判庁檔案	大理院・京師高等審判庁民事訴訟関連文書（上訴狀、判決、和解記録等）	1913-1924
47-48	中国第二歷史檔案館	民国大理院檔案	大理院民事訴訟関連文書（上訴狀、判決、和解記録等）	1914-1918
49-50	中国第二歷史檔案館	民国京師高等審判庁檔案	京師高等審判庁民事訴訟関連文書（上訴狀、判決、和解記録等）	1913-1925
51-67	北京市檔案館	民国北京地方法院檔案	大理院・京師地方審判庁・京師高等審判庁・河北高等法院第一分院・北京地方法院・最高法院民事訴訟関連文書（訴狀、調解記録、判決書等）	1912-1947